

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 地球っ子プロジェクト

1 事業の趣旨・目的

外国人児童生徒（日本語を母語としない児童生徒）が、よりはやく日本の生活に慣れ、学校での学習活動や地域の行事に参加できるよう支援を行う。具体的には「子ども日本語教室」を開催する。（夏・冬休みは、通常教室と内容を変えて各3日と1日実施する）学習目標 日本語指導を主とし、国語算数などの主要教科指導も行う。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成22年 9月4日 12:00-14:40	船橋市東部 公民館	齋藤ひろみ 掛村利弘 宮慶助 浦和かほる 安部恵美子	1. 年度前半の活動報告 2. 市の外国人児童生徒の受け入れの現状 3. 国の施策の概要、地域のサポートの仕方への提言	1. 当会の活動報告 2. ・帰国外国人、日本語指導を要する児童生徒数ともに減少傾向。・学校における学習支援体制のあり方について検討。 3. ・子ども向け日本語教育施策には、学年や母語のちがいの幅広いバリエーションがあり、これらに対応することが求められている。・子ども対象には日本語の知識や技能の向上を求めることは難しい。活動型の場面の中で日本語を覚え、教科学習へと結びつけて行く工夫が重要。・教科学習の理解を深めるために、事前に所用の日本語情報を入れる等のサポートが有効。・文型あり、場面あり、宿題ありの組み合わせで指導し、3か月くらいの単位で方法を見

				直すなどの工夫。
平成 23 年 3 月 3 日 16:00-17:30	船橋市役所	齋藤ひろみ 小野田芳美 掛村利弘 宮慶助 浦和かほる 安部恵美子	1. 年度全体の活動報告 2. 市の外国人児童生徒の受け入れの現状 3. 地域のサポートの仕方への提言	1. 当会の活動概況報告 2. ・日本語指導を必要とする児童生徒数は 100 名程度と見られ大きな変化は無い。・父母ともに働く家庭が増え、児童生徒の問題について保護者と話し合いを持ちにくい状況出現。 ・地球っ子のような教室は、学校では対処しきれない、個人の話をよく聞いてあげることができる居場所としての役割大。 ・今年度は地球っ子プロジェクトの会員が新たに学校派遣日本語指導協力員に登録し、学校における学習支援を充実させることが出来た。 3. 母語の保持について、小学校低学年では、母語の能力も少ないため家庭内での母語の使用がなければ保持するのは難しい。小学校高学年以上であれば、考える活動に母語を結びつけることにより可能性はある。

【写真】



3 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称 子ども日本語教室

② 開催場所 船橋市東部公民館

③ 学習目標

1) 正しい日本語に接する時間を設定する。

：日本語学習用の教科書を使用して体系的な学習を目指す。

：通常の授業に出てくる日本語の補習も行う。

2) 個人教授ではなくグループで、日本語を共通語として、母語の違う学習者が日本語学習という課題を共有して互いを向上させる。

3) 子どもたちが抱える悩み（ストレス）や苦労を共有する仲間が集い、日本で充実した生活ができるように訓練する。

④ 使用した教材・リソース

『みんなの日本語 I, II』『ひろこさんのたのしいにほんご』『こどものにほんご』
『日本語学級』『絵でわかるかんたん漢字』『わいわいクラス活動集』『マリアとケ
ンのいっしょに日本語』『小学校学年別全教科プリント』『小学校学年別算数文章
題』『レベル別日本語多読ライブラリー』『教科別 JSL カリキュラム』くもんの絵カ
ード、ことわざカルタ、他自作の教材

⑤ 受講者の募集方法

1. 年度の初めに教育委員会を通じて、市内小中学校長・国際理解担当教員宛チラシを送付し、支援情報を案内した。
2. 教育委員会の転入窓口にチラシを置き、転入時に紹介してもらった。
3. 国際交流協会の事務局にチラシを置き、問い合わせに応じて紹介してもらった。
4. 学校派遣の日本語指導協力員に研修会、成人の日本語教室などを通じて当会の案内をした。

⑥ 受講者の総数 49人（延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。）

中国 24 フィリピン 13 ペルー 3 ベトナム 2 日本 2

スウェーデン、スペイン、ボリビア、バングラデッシュ、韓国 各 1

⑦ 開催時間数（回数） 84時間 （全 42回 含大地震による休講1回）

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・ (補助者)人数	内容
1	22 年 4 月 10 日	2	16	受講者総人数 49 人の国籍別 内訳 中国 24、フィリピン 13 ペルー 3、ベトナム 2、日本 2 スウェーデン・スペイン・バン グラデッシュ・ボリビア・韓 国各 1	教授者 11	日本語、教科 学習(数グループに 分かれて実施) 以下同上
2	17	2	17		13	
3	24	2	17		10	
4	5 月 8 日	2	21		11	
5	15	2	18		13	
6	22	2	16		13	
7	29	2	22		14	
8	6 月 5 日	2	16		13	
9	12	2	18		15	
10	19	2	19		11	
11	26	2	15		12	
12	7 月 3 日	2	19		15	夏休み教室
13	10	2	24		13・(2) 15	
14	17	2	25		14・(3) 17	
15	24	2	15		13・(5) 18	
16	25	4	17		14・(4) 18	
17	27	2	9		7・(6) 13	
18	9 月 4 日	2	23		13	日本語、教科 学習
19	11	2	17		8	以下同上
20	18	2	21		12	

21	25	2	22		14	
22	10月2日	2	21		12	
23	9	2	23		13	
24	16	2	21		12	
25	23	2	15		11	
26	30	2	15		14	
27	11月6日	2	21		13	
28	20	2	19		12	
29	27	2	17		12	
30	12月4日	2	15		11	
31	11	2	21		14	
32	18	2	25		12	冬休み教室
33	23年1月8日	2	16		14	日本語、教科 学習
34	15	2	17		13	以下同上
35	22	2	19		13	
36	29	2	21		12	
37	2月5日	2	17		12	
38	12	2	13		14	
39	19	2	18		13	
40	26	2	19		16	
41	3月5日	2	20		12	大震災による
42	12	0	0		1	休講

⑨ 特徴的な授業風景（2～3回分）

通常の授業より2例、夏休み教室、冬休み教室を報告する。

1. 小学生低学年中級（中国女小3、ペルー女小2、中国女小2）

【前半】

九九の2と3の段の練習

2 x 3 = 6 など文字で見るとでてこないものが、に、さんが・・と聞くと6と答えられた。明らかに九九で覚えている。

4の段に入った。飛び越して5の段は比較的すらすら言える。

Sは詰まると、足し算で出そうとしていた。

ドリルで2と3の段のかけ算の練習をした。

—休憩—

【後半：】

1年生の漢字の復習（ドリルで抜粋）。



Zが遅れて参加。疲れて眠そう。

「好きな食べ物」と「好きな動物」について作文を2つ書いた。

あまり時間がなかったので残りは算数の文章題をした。少しひねった問題は、質問の意味が分からないのか、なかなか式が出せないが、ちょっとヒントを与えるとすぐに式にして答えを出すことができた。問題が読み取れないのか、考えるのが面倒なのか判断しかねた。

2. 中学生初級前半（中国女中1、フィリピン女中1、中国男中1、2、3）

【前半】女子二人は、ライブラリー1の音読

「ハチ公」を読んで、内容も理解できていた。

—休憩—

【後半】男子3人が遅れて合流

・『みんなの日本語I』17課の「ないでください」「なければなりません」を、動詞カードを使い、各自担当のカードで言ってみた。



各自1枚の動詞カードで、「なければ...」の文を作り、それに、何時、何処で誰がなど文を膨らませ、発表した。5人共、真剣に取り組んでいた。

・「あいうえおのうた」を順番に読んでみた。濁音拗音、促音が入った文章だったので練習時間をもうけたが、難しかったようだ。Uも楽しく取り組んでいた。揃ってのスタートが遅いため、予定の半分しかできなかった。

3. 夏休み教室

報告書別添：6. その他の資料 6-1

4. 冬休み教室：6. その他の資料：6-2

開催日：平成22年12月18日（土）

場所：船橋市東部公民館

主催：船橋市東部公民館と共同開催

内容：ハッピーサタデー行事としてベトナム人講師による「ベトナム料理教室」及び冬休み教室として地球っ子プロジェクト会員による「年賀状作り」

参加者：子供日本語教室の児童生徒25名
管区の日本人児童6名 計31名

当会ボランティア12名、ベトナム人講師1名

当日の様子は、地球っ子プロジェクトの活動の紹介として、地方の情報誌『My Funa』3月号にMy Funaネットと共に掲載された。



⑩ 活用した日系人等（日本語を母語としない）の名簿

氏名	母語（国籍）	来日年（日）数	参加回数	当該教室での役割
ダン・デュ・チュエット	ベトナム語（ベトナム）	1年	1回	文化（料理）紹介、指導

⑪ 支援者の名簿（⑩以外）

氏 名	所 属	専門分野および日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
安部 恵美子	当会会員	学校派遣協力員 日本語講師養成講座修了	40	教授者 会計
市原 佐由美	以下同上	日本語講師養成講座修了	36	教授者
伊藤 昭子		日本語教師資格 学校派遣協力員	36	教授者 監査
伊藤 麻里紗		大学院生 日本語教師資格	9	教授者
伊藤 三恵子		学校派遣協力員	25	教授者
浦和 かほる		日本語教師資格 日本語コーディネーター	36	教授者 副代表
丘 瑞子		日本語講師養成講座修了	27	教授者
坂井 一成		日本語教師資格 高校教師経験	0	教授者 幹事
澤山 愛里菜		大学専攻 日本語教師資格	29	教授者
滝沢 孝子		日本語講師養成講座修了	36	教授者
野村 則子		学校派遣協力員	25	教授者
広瀬 千鶴子		日本語講師養成講座修了	13	教授者
舟木 千枝子		日本語講師養成講座修了	38	教授者
松川 京子		学校派遣協力員	24	教授者
宮 慶助		日本語教師資格 日本語学校講師経験	38	教授者 代表
吉村 辰美		学校派遣協力員	33	教授者
吉村 弘子		日本語講師養成講座修了	33	教授者
山野 陽子		日本語講師養成講座修了	36	教授者
笠原 道子	外部日本語ボランティア	日本語講師養成講座修了	3	補助者

くわ原 裕子	以下同上	日本語講師養成講座修了	3	以下同上
小林 澄子		日本語講師養成講座修了	4	
小林 洋子		日本語講師養成講座修了	4	
鈴木 ひろ子		日本語講師養成講座修了	1	
高橋 智江		日本語講師養成講座修了	1	
コロンサラ白崎	高校生		2	
松川 未来菜	高校生		2	

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

当教室の目標は、「子どもたちがより早く生活に慣れること、学校での学習活動や地域の行事に参加できること」である。目標達成度は、本人の精神的な安定度、日本語の能力の伸び、参加の態度などを観察の基準として判断した（参考資料 a JSL バンドスケール 観察記録欄）。

船橋市内には日本語支援を必要としている児童・生徒が約100名いる（教育委員会指導課調べ）。子ども日本語教室へは前年度からの継続と新規入会を含め、今年度は48名の参加者があり、その内28名が年度末まで残っている。今年度は就学前の子どもに対する不安で保護者から指導の希望があった他、不登校の中学・高校生の参加も臨時で受け入れた。個人差はあるが、在籍期間に応じた達成度はあったものと思われる。指導方法を習いたいという熱心な保護者の参加もあり、子どもたちの感想文に見られるように楽しみに参加しているという声を多く聞くことができた。年齢の近い者同士のグループ学習を基本としているので、同じ国、または同じ境遇の友だちに会いに来ることを楽しみにしている子どもも多いこと、また中級レベル以上になっても続けて参加している子どもがいることは、精神面でもよりどころとなる居場所を提供できているためと思われる。退会の理由としては、帰国、必要がなくなった、土曜日に部活や習い事がある、引っ越し、保護者が連れて来られなくなった等、である。

② 学習者の習得状況（6 その他の資料 6-3 JSL バンドスケール参照）

当教室では、H19年に早稲田大学の川上郁夫教授のJSL バンドスケールの講習を受け、日本語能力の伸びの経過観察を数値で表す基準の一つとして用いている。個々の学習態度、精神状態など日本語以外の要素も合わせて、グループの担当ボランティアの報告による。入会后直ちに日本語の力を伸ばせる子ども、まずは言葉がわからない環境に慣れることから始める必要がある子どもなど多様な対応が必要になる中で、1年間で概ね+1～+3の伸びが認められる。伸びの内容としては、萎縮して全く声が出せなかったのが発話できるようになった、話すことができるようになったため文字習得に進むことができた、などの例が挙げられる。母国での学習能力にも個人差がある中で、日本語の伸

びが即座に学校のテストでの得点に結びつかない不安を訴える保護者や子どももいるが、判断の難しいところである。非漢字圏の子どもにとっては来日1年程度ではどの教科も教科書を読んで理解することは難しく、漢字圏の子どもにとっても算数の文章題、国語の長文の理解は難しい。少なくとも2年程度の支援が必要と思われる。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果（6 その他の資料 6-4）

効果については、子どもたちにとってどうであったかが第一の視点であると思うので、年度末の感想文のまとめを報告とする。感想文のテーマは、「この教室でよかったこと、わかったこと」で、ひらがなで単文が書ける程度以上の日本語力がある子どもに自己表現の力の伸びの成果確認を兼ねて実施した。内容の約9割が、楽しい学習、指導者のやさしさ、友人といっしょに学べることを挙げていたことは、精神面でのサポートにも効果があったと言えるだろう。ボランティア指導者にとっても、学校での個別支援と異なり、指導方法を相互学習できる場として意義があったと思われる。

5 地域の関係者との連携による効果、成果 等

a. 船橋市東部公民館

昨年度に引き続き社会教育関係団体として公民館の協力があり、教室の年間予約、備品の置き場所の提供をしてもらうことができ、安定的に定期活動をする上で大きな支援となった。公民館事業のハッピーサタデー（ベトナム料理教室）を協力開催することで、日本人の子どもたちと自然な交流の場がもてた。また他の協力団体にも企画会議で当団体の活動を知ってもらい、外国人児童生徒の存在が認識される良い機会になったと思われる。

b. 船橋市教育委員会

市内の日本語の指導を必要としている児童生徒を最も把握しているのは教育委員会である。その転入窓口で当教室のパンフレットを渡し、来日後できるだけ早い機会に当教室を紹介してもらうことができた。また、80あまりの小中学校の国際理解教育担当にも配布し、途中で必要が生じたときにも紹介してもらえるルートができた。これらは支援の場所が学校以外にもあることを知ってもらう上で役に立ったと思われる。

また、当会の会員の多くが学校派遣の日本語指導協力員でもあり、教育委員会の主催する研修会に参加し、課題解決の助けとなった。今年度は、更に当会の会員から指導協力員への登録者も増え、実際に経験者の授業を見ながら学校の現場で研修する機会もいただいた。教委の先生には本委託事業の運営委員になっていただいて、情報交換を頻繁に行うことができた成果と考えられる。

c. 船橋市国際交流協会

本協会は市内7カ所で成人のための日本語教室を主催している。そこで日本語支援者養成講座を修了して活動している約140名のボランティアに向けて、夏休み、冬休み教室への臨時の協力者を募集することができた。日本語指導の基礎知識と実践の経験があるので、信頼性の高いボランティアを集めることができたことは、協会とのネットワークの効果と言える。また後援者として協会事務局にもパンフレットを置き、保護者などからの問い合わせに対して当会を紹介したり、相談に応じたり協力関係を深めることができたことは成果である。

d. 千葉県の他の団体とのネットワーク

昨年度までのボランティア代表者連絡会の成果として、千葉県国際交流センターの主催する研修会、房総日本語ボランティアネットワークの主催するセミナー、他市の団体主催の研修会など案内をもらうことができ、当会からも研修の参加呼びかけもできた。これにより参加した会員は、指導方法についての情報交換や課題の共有ができ、運営方法や指導力向上などに役立った。

e. 専門家による研修

本委託事業の運営委員でもある東京学芸大学の齋藤ひろみ准教授による研修を行った。今年度は、週1, 2回と限られた支援の中で、見えにくい家庭生活の日本語、学校生活でのサポートの仕方に焦点を当てて研修をしていただいた。テーマは、「文化間移動をする子どもたちへの日本語教育—言語活動を通して考える力を育む」。当会会員12名、外部より7名が参加した。ワークショップにより、実際に使える活動型教材の作り方を学ぶことができた。

④ 改善点、今後の課題について

a. 現状

来日直後で初期指導が必要な子どもへの個別対応はあるが、基本的には日本語能力、学力にレベル差はあっても、精神的に安心でき、人間関係をもつことができる環境での日本語の習得を目標にグループ学習を行っている。従って個別の要望に応じ切れないものもある。以下応じられていないと考えられる点を挙げる。

- ・かなりの期間声を出すことができない。
- ・年少者特有の心の問題の把握と対処（家庭環境は安定しているか、相談できる人がいるか、学校に適応できているかなど）
- ・母国や家庭での学習習慣の把握と対処（家庭で母語での会話が十分あるか、知ること、学ぶことの大切さを感じているか）
- ・保護者との話し合い（特に中学生は送迎がないため、保護者と話す機会が少ない）

b. 今後の課題

学校での教科についていけないという悩みを抱えた子どもは小学校高学年、中学生で来日する子どもに多く、これまでは日本語を学ぶことによって日本の生活に適応、学校での教科理解につなげることを目標に対応してきた。今後は、初期指導としての日本語支援を続ける一方、教科理解のための日本語支援を「考える力、社会生活を送る力を育む」日本語支援として研究し、実践していく。週1回の機会、現ボランティアの人材だけでは多様なニーズに応えるのは無理なので、学校との情報交換をさらに緊密にして、サポートの内容を連携して行っていく体制作りを考える必要がある。

c. 今後の活動予定、展望

H22 年度と同様に、週一回土曜日の定期的な日本語教室の開催による日本語の指導と公開の夏休み教室、冬休み教室による多文化交流行事を行う。また、内外の指導者相互の学習の機会を多く持ち、グループ指導の技術などボランティアの指導力向上に努めたい。

6 その他参考資料

6-3 地球っ子プロジェクト H22 年度 JSL バンドスケール

*在日年数は、H22,4 または入会時

(1)就学前

利用教材：塗り絵、ひらがなのなぞり書き 絵本 算数道具体箱など

氏名	性	国	学年	在日年数	2010. 4				2010. 10. 1				2011. 2. 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
1	M	バングラデシュ	就前	0	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	保育園に行くため退会
2	F	フィリピン	就前	1	2	2	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	習い事などの行事が多くやすみがち
3	M	中国	就前	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	来日したばかりで、まだ声がでない。

(2)小学生低学年 中級

利用教材：みんなの日本語 日本語を学ぼう 国語の森 算数・国語ドリル レベル別日本語多読ライブラリー

氏名	性	国	学年	在日年数	2010. 4				2010. 10. 1				2011. 2. 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
4	F	中国	小2	2	1	1	1	1	3	3	3	3	6	6	6	6	マイペース、意欲的、楽しそう。ら行の発音が苦手なのを自覚して努力している。母親が熱心。進歩が速い。
5	F	ペルー／日本生まれ	小2	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	日本生まれなので、日本語は問題ない。日本人の母親から教わる日本の文化を教えたい。
6	M	ペルー	小3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5	4	5	小1、2のペンキようが抜けている。みんなと一っしょに文章を書いたり、算数の文章題をするのが、つらそう。レベルにあったグループでゆっくりしたほうがよい。

(3)小学生中学年 初級後期

利用教材：小3の全教科ドリル ことわざカード 他

氏名	性	国	学年	在日年数	2010. 4				2010. 10. 1				2011. 2. 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
7	F	中国	小3	1.5	3	4	3	3	4	5	4	4	4	6	4	5	学習意欲が強い。特に読書と作文が好きで、几帳面に文字を書く。自分から進んで家や学校のことを話そうになった。
8	M	中国	小4	2	2	2	2	2	2	3	2	2	3	4	2	2	理解力はあるが、落ち着きと集中力に欠けるため学力が伸びない。話すことは上手になってきたが、読み書きはじっくり学習する必要がある。わがままな面もあるが、明るく優しい性格。
9	F	スペイン	小4	1.5	4	4	2	3	4	4	2	3	4	5	3	4	発話に自信がないせいか、早口で小さい声で話す。語彙が少ないこともあり、話が相手につたわず、フラストレーションを感じることもあるようだ。ゆっくり、大きい声で話す練習が必要。3年生の漢字を勉強中。

(4)小学生高学年 初期指導

利用教材：にほんごを学ぼう 漢字 200 算数文章題ドリル 小1, 2の国語教科書

氏名	性	国	学年	在日 年数	2010, 4				2010. 10, 1				2011, 2, 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
10	M	フィリピン	小6	2か月	—	—	—	—	1	1	2	1	3	4	4	4	学習意欲旺盛。読み、書きが好き。会話が苦手。教科の勉強に追いつくのが大変。
11	M	フィリピン	小5	2か月	—	—	—	—	1	1	2	1	2	3	3	3	会話は苦手。遊びの話は良くできる。計算はできるが、文章題が難しい。

(5)小学生高学年 初級前半

利用教材：『レベル別日本語多読ライブラリーレベル1、2、3』白石範孝監修『国語の森—説明文が強くなる 小学1年、2年』学研 『にほんごをまなぼう』ぎょうせい

氏名	性	国	学年	在日 年数	2010, 4				2010. 10, 1				2011, 2, 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
12	F	中国	小6	3か月	—	—	—	—	3	3	2	3	4	4	3	4	熱心に勉強に取り組んでいた。性格も明るく、言葉を覚えるのも早くグループのリーダー的存在。英語が得意で英語を媒介に尋ねることもあった。わかったことを中国語で他の2人に説明してくれたこともある。分からない語彙はあるものの多読ライブラリーレベル3が完全にあらすじは把握でき、日本語で説明できるようになった。
13	M	中国	小6	3か月	—	—	—	—	2	2	2	2	3	3	3	3	はじめた頃は、非常に表情も固く、日本語の語彙力も極端に少なかった。声を出させるのが困難だった。最初嫌がっていたプリントも、全部出来るようになるまで達成感を持ったようである。徐々に遅刻がなくなり、最近では始まる時間よりも前に来るようになった。積極的に本を音読したり、文章を考えるようになった。まだ語彙は不足しているが、自分の考えを伝えようと努力している。今後の課題としては、読書や作文を通してもっと語彙を増やす取組が望ましい。
14	F	中国	小5	3か月	—	—	—	—	2	2	2	2	3	3	3	3	最初のころは、全く声が出ず、非常に頼りなく、暗い感じがした。グループで取り組んでいた語彙を増やすプリントもなかなか覚えられず苦戦していた。ひらがなや漢字は書いていたが、文章を作ることはできなかった。しかし最近では、日本語が上達するにつれ、表情が明るくなり自ら発言するようになった。また字を書く速度も速くなり積極的に課題に取り組んでいる。日本語の語彙を伸ばす必要はあるが、算数が非常に苦手な様子である。算数の文章題なども取り組んでいければと思う。

(6)小学生高学年 特殊ニーズ

利用教材：小2, 3の国語の読み物 算数の文章題

氏名	性	国	学年	在日 年数	2010. 4				2010. 10. 1				2011. 2. 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
15	M	ボリビア	小5	0.5	2	2	1	1	3	4	2	2	4	5	2	3	聞くことはできるが、自分の意志を言葉にするのが難しい。算数がしたいと自分から言えるようになった。
16	M	ペルー	小6	7	3	3	2	2	4	4	2	2	5	5	3	3	優しく親切で、新入生の面倒を見る。新しいことを考えようという意欲、集中力が足りない。社会性に問題。
17	M	中国	小6	2	—	—	—	—	5	5	5	6	7	7	5	5	日本語は全般的に問題ない。学習能力はあるが、落ち着きがなく障害となっている。
18	F	中国	小6	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4	3	3	学校の学習にもついて行っている。能力も高いが、恥ずかしさで発話が少ない。
19	M	フィリピン	中1	1	5	5	4	3	退会	—	—	—	—	—	—	—	部活のため退会
20	M	フィリピン	中1	2	3	3	2	2	退会	—	—	—	—	—	—	—	部活のため退会
21	M	中国	中1	1	2	2	2	2					退会	—	—	—	部活のため退会

(8)小学生、中学生、高校生 初級後半～中級

利用教材：みんなの日本語 II、日本語多読ライブラリーなど

氏名	性	国	学年	在日 年数	2010. 4				2010. 10. 1				2011. 2. 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
22	M	中国	中2	1	4	4	3	4	6	6	5	6	8	8	7	7	学習意欲は低い日本語は確実に上達している。高校進学のための準備が必要。
23	M	中国	中1	1.5	3	3	3	3	4	5	3	4	退会	—	—	—	2010.12 自分の意志で退会
24	M	中国	小6	1.5	—	休会	—	—	4	4	4	5	7	7	6	7	学習意欲は低い、上達は速い。
25	M	スウェーデン	高1	4か月	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	学習意欲があり、上達は速い。
26	F	中国	中1	1	4	5	4	4	帰国	—	—	—	—	—	—	—	2010.7 帰国のため退会

(9)中学生、高校生 特殊ニーズ

利用教材：言葉と文法小6 日本語作文強化プリント

性	国	学年	在日 年数	2010. 4				2010. 10. 1				2011. 2. 19				学習意欲、態度、進度、精神面、社会性、今後の課題
				話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
F	フィリピン	中1	1	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	意欲はあるが、正解することのみに意識が行く傾向がある。日本語に多面的に親しむことができるといい。積極的に明るい。
F	フィリピン	高1	5	—	—	—	—	5	5	5	4	5	5	5	4	高校になじめず、進級も難しい。日本語の勉強は熱心で自主的に進め、日常会話には困らない。明るくリーダー的に振る舞うこともあるが、精神的に不安定さもある。引っ越しのため1月退会。
F	フィリピン	中3	15	—	—	—	—	8	7	7	7	8	7	7	7	日本で教育を受けているので、日常会話は不自由しない。精神的な不安定さがあり、保健室登校。特定の友人以外と接するのが苦手。今年は進学せず、アルバイトをしながら来年進学する予定。卒業後の準備のため1月退会

(10)中学生 初期指導

利用教材：『みんなの日本語 I』を中心に

氏名	性	国	学年	在日 年数	2010, 4				2010. 10, 1				2011, 2, 19				学習意欲、態度、進捗、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
30	M	中国	中3	1.2	2	2	1A	1A	2	2	1A	2	4	4	3	3	意欲はある。音読はすらすらできる。高校受験。
31	M	中国	中1	3か月	1	1	1A	1A	2	2	1A	2	3	4	2	3	声が小さい。日本の漢字の読みが苦手。量的にたくさん学べない。
32	M	中国	中2	3か月	1	1	1A	1A	2	2	1A	2	3	4	2	3	声が小さい。学習意欲が低いので、量的にたくさん学べない。
33	F	フィリピン	中2	0	—	—	—	—	1	1	1	1	2	3	2	2	勉強より自分の知っていることを話すのが好き。興味のないことにはやる気を示さない。会話は少しずつできるようになっている。
34	F	中国	夜中2	0	—	—	—	—	1	1	1	1	3	3	3	3	成人の日本語教室に変更のため退会
35	F	中国	中1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4	4	3	意欲があり、学習にもついて行っている。声は小さいが、日本語進歩は速い。

(11)中学生 上級

利用教材：歌の歌詞、小説、漫画、慣用句問題集など

氏名	性	国	学年	在日 年数	2010, 4				2010. 10, 1				2011, 2, 19				学習意欲、態度、進捗、精神面、社会性、今後の課題
					話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む	
36	F	中国	中2	2	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	日本語の習得能力が高く、ほとんど日本人と変わらない。読書のスピードも速い。当会には自分の話を聞いてくれる場を求めている。
37	F	中国	中1	2	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	同上

6-4 H22 年度 参加者感想文より抜粋

作文のテーマ：「地球っ子の日本語教室の良かったところ、悪かったところ」

() 内は報告者による

小2, 4 中級 (作文から抜粋)

良かったところ

- ・かけ算九九の勉強をはじめて習った。だんだんすらすらできるようになりました。
- ・読みたい本があったとき、かりることができるのが一番良かったところです。
- ・読み方の勉強も一生けんめいやりました。
- ・2010 年のとき、Sちゃんをつれてきていっしょに勉強したとき、すつごく (すつごくを11回くり返し) 楽しかったです。
- ・一番楽しかったゲームはことわざカードゲームです。みんなより先にとるのが気持ちいいからです。好きなことわざは、花よりだんご、まけるが勝ち、です。
- ・千葉動物園に行くのも楽しかったです。モルモットをさわるのが気持ちよかったです。きりんの絵を描くのも楽しかったです。最後にコラージュにして、写真を切ったり絵を書いたりすることがおもしろかったです。
- ・3年生のかん字をべんきょうしています。5年生になってもがんばります。

悪かったところ

- ・いつもNちゃんとK君がおそいからすつごくさびしいです。
- ・一人の時ゆっくりべんきょうできます。

小5, 6 初級 (原文のまま)

良かったところ

- ・いっぱい友だちができた。
- ・授業はとてもおもしろいです。
- ・先生はやさしいです。
- ・日本語もまえよりもとてもできるようになりました。
- ・みんなと動物園へ行って楽しかった
- ・新しいことばを覚えた
- ・本をよみました。おもしろかった。
- ・ハッピーサタデーに参加して、お料理したのが楽しかった。

悪かったところ

- ・始まる時間が早い。
- ・単語がむずかしくてわからない事があった

小5, 6中級 (作文から抜粋)

良かったところ

- ・2か月だが、ここへ来てよかった。
- ・先生がやさしい。
- ・教室がにぎやかで、みんなといっしょに勉強するのはうれしかった。
- ・すぐ友だちができて、楽しい思い出がいっぱいありました。校外学習のことは今も覚えています。

悪かったところ

- ・意味がむずかしくてわからない事があった。説明に時間がかかる。でも別の言い方を覚えられる。
- ・うるさいので、静かな教室が欲しい
- ・弟が参加するようになって、朝いやがるので早く地球っ子に行けなくなった。

小6、中1、高2 中級 (作文、アンケートから抜粋、文字はそのまま)

良かったところ

- ・まだ半年もたってない。でももう沢山の友だちが出来ました。
- ・先生いつもやさしく勉強を教えてくださいました。すごく良かったです。
- ・これからもっと勉強を頑張りたいです。
- ・I like this 日本語教室
- ・知識が深まりました。
- ・日本の漢字が読めるようになった。書けるようになった。
- ・文書の作り方が進歩した。
- ・これからもっと日本人のようにすらすら日本語を話せるようになりたい。
- ・外国語を習うことができます。(スウェーデン人の子と同じグループのため)
- ・冬休み教室の時に、調理教室が行われました。みんなが協力して、すごく良い思い出ができました。
- ・応用力がつけました。

中1、2、3初級 (原文のまま)

良かったところ

- ・勉強は楽しい。
- ・漢字がわかりました。
- ・先生方はとても優しく親切です。先生と日本語でおしゃべるが楽しいです。
- ・エアコンがあります。夏季と冬季くるときいつも気持ち環境で勉強します。
- ・先生と話ができなこと。

- ・同じ国の違う中学校の友だちができたこと。
- ・ぜんぜん話せなかった日本語が、今ははなせるようになってうれしいです。
- ・歩いていてポスターやかんぱんの字がわかるようになった。

悪かったところ

- ・朝大変です。時間が早いです。
- ・友だちがいない。これからたくさん話したい。友だちを作りたい。
- ・生徒たちの声が大きくて、ときどき先生の声がきこえなかったです。

中 1、2 上級（作文より抜粋）

- ・日本語がちゃんと話せるようになってからもここに来ているのは、話をちゃんと聞いてくれる先生がいるから。友だちや、親にも言わない話も出来る。
- ・中2になって、行事、生徒会で忙しくて疲れているけど、休日朝8時に起きなければならぬけど、それでもここは羽を休める場だと言える。
- ・現実を忘れることができる。
- ・気軽に話すことができる。

日本語であそぼう ふなばし 2010

夏休み子ども日本語教室

報告書

日本語であそぼうふなばし 2010 企画		P.2
実践報告 1.統計		P.3
実践報告 2.プログラムの内容と実際		P.4
総括		P.6

参考資料

資料 1 プログラム パンフレット (別添)	
資料 2 活動風景の写真	 P.7

誕生年の干支を使って自己紹介
動物の種類、分類などの下調べ
千葉市動物公園にて
写真パネル作り
発表会



作成 地球っ子プロジェクト

2010 年 8 月 31 日

1. 主催、共催、後援等

主催：地球っ子プロジェクト（船橋市東部公民館社会教育関係団体）

後援：船橋市教育委員会（指導課）

船橋市国際交流協会

文化庁平成22年度地域日本語教育支援事業〔日本語教室設置運営〕の委託事業として実施

2. 趣旨

外国人児童生徒（日本語を母語としない）が、日本の生活に慣れ、学校での学習活動や地域の行事に参加できるよう支援を行う。

併せて、日本人児童生徒の参加による国際理解教育も行う。

3. 実施日時 平成22年7月24日（土）、25（日）、27日（火） 3日間 午前

4. 実施場所 東部公民館および千葉市動物公園

5. 日程

7月	時間	場所	カリキュラム
24日(土)	09:45~11:45	東部公民館講堂	1)自己紹介 2)動物、写真をテーマに2日目の準備
25日(日)	09:00~14:00	千葉市動物公園	見学、観察、写真撮影、スケッチ
27日(火)	09:45~11:45	東部公民館講堂	1)2日目のまとめ(写真パネル、フォトブックの作成) 2)発表

6. 参加予定者数及び参加の方式 児童生徒 25名 ボランティア 20名
- 児童生徒：地球っ子プロジェクトの「子ども日本語教室」に参加している児童生徒
：市内小中学校を通じて募集する児童生徒（外国人を主とし日本人も）
- ボランティア：地球っ子プロジェクトおよび日本語教室等から応募したボランティア
以上

実践報告 1. 統計

1.参加児童・生徒とボランティアの内訳

参加児童・生徒 19 名

- ・土曜日子ども日本語教室の会員 18 名（1 日でも参加した子ども）
- ・会員の兄弟 1 名

2010 年 7 月	2 4 日（土）	2 5 日（日）	2 7 日（火）
児童生徒	15	17	9
ボランティア計	18	17	13
地球っ子	13	13	7
外部	5	4	6
保護者	0	0	2

2.児童・生徒内訳

学年別

就学前	3
小 1	1
小 2	0
小 3	2
小 4	1
小 5	3
小 6	1
中 1	3
中 2	2
中 3	1
その他*	2
合計	19

国籍別

フィリピン	7
中国	5
韓国	1
ベトナム	2
バングラデッシュ	2
日本	1
ペルー	1
合計	19

* その他：転入手続き前、高 1

3.参加者の居住地の傾向

新京成線沿線 7、津田沼からバス路線 2、JR 線 10

実践報告 2. プログラムの内容と実際

(1) 行事のねらい

共通テーマの「動物・写真」に沿って、日本語のレベル、年齢に応じた活動を工夫する。活動を通じて、読む、聞く、話す、書く機会を設ける。活動の中で互いを認め、助け合い、コミュニケーションをとる工夫をする姿勢を引き出す。

(2) グループ編成

作業のしやすい同性または同年代の仲間との交流がはかれるようにした。

グループ 1	就学前
グループ 2	小学校 3・4 年
グループ 3	小学校 5・6 年、小 1 日本人女子（日本語のレベルが高い）
グループ 4	中学校 1～高校 1 女子
グループ 5	中 1・2 中国男子
グループ 6	小学校 5・中 1 男子

(3) 全体のテーマ 「動物、写真」

テキストとして、プログラムを配布した。誕生年から干支を計算する方法、動物の分類表、動物公園の地図。

(4) プログラムごとのグループ別活動の実際

1 日目

干支で自己紹介	壁に 12 枚の大きな干支の絵を貼っておいた。自分の干支のポスターに名前を書いて貼る。自己紹介で干支と名前が言えるようにする。
動物公園の計画を立てる	年齢に合わせて、グループごとに動物公園での行動計画を立てる。 デジタルカメラの使い方を覚える。
グループ 1 出席 3 名	干支の理解は無理だった。干支の絵本の読み聞かせ、動物ビデオなどを見せた。机が高すぎたので、床に座らせた。自己紹介は名前程度。
グループ 2 出席 1 名	麒麟の絵を描くことに決定。残りの時間は動物の指人形作りなど。
グループ 4 出席 5 名	動物の分類の名称、動物の漢字の学習ではリーダーシップをとる子がいた。干支の計算（西暦 4 桁 ÷ 12）につまづく子がいた。動物園では水系の動物の撮影に決定。

グループ 6 出席 2	千支の計算（筆算）につまづきがあった。自信のあることから学べるように変更。会員の子には、前もって動物についてなど予備学習をしておけばもっと興味がもてたのではと思う。
----------------	--

2 日目

千葉市動物公園で、1 日目に計画した動物を中心に写真を撮る

グループ 1 出席 2 名	ゆったり時間が取れ、楽しめたようだ。特に、ただ見るのではなく、動物に触れたり、動物の糞をそうじする体験は楽しそうだった。カメラは小 4 以上としていたが、実際 5 才でも自分のカメラで上手にシャッターチャンスをとらえる工夫ができ、個人差があった。
グループ 2 出席 3 名	キリンの絵を全員で描いた。年齢が近かったので、1 つに決めて仕上げたことがよかった。小動物に触れる体験は関心が高かった。
グループ 4 出席 5 名	写真を撮るだけでなく、動物の出身地などをメモするフォームを渡しておいたので、情報を得て書き取る練習にもなった。
グループ 5 出席 2 名	餌やり、触れる体験が特に楽しめたようだ。
グループ 6 出席 2 名	触れる体験は、日頃静かな 2 人が笑い、表情もよく楽しんでいるのが印象に残った。動物の癒しの効果が感じられた。

3 日目

2 日目の動物公園での活動を写真パネル、フォトブックなどの作品に仕上げる。

グループ 1 出席 2 名	自分で撮った写真でアルバムを完成させた。写真説明も名前、題名、感想など一言だけでも指導の下で文字も書いた。
グループ 3 出席 1 名	パネルとアルバム両方を完成させた。飾りテープを用いたり、題名にも工夫が見られた。
グループ 4 出席 4 名	パネルの他に、全員で見てきた動物の分類新聞とクイズを作成し、発表した。クイズは他の子どもたちも全員で楽しめた。
グループ 5 出席 1 名 グループ 6 出席 1 名	各グループ 1 名だったので合併して活動した。一人が活動的な子で静的な作業が好きではなかったもので、もう一人が影響を受けてしまい、落ち着かず完成に時間がかかったが、なんとか仕上げ、発表した。

総括

船橋におけるボランティアによる外国人児童生徒と、日本人児童生徒を対象とした夏休み教室は、今回で7回目となった。地球っ子プロジェクトとしては5回目だが、多くのメンバーが1回目から参加していて経験の積み重ねがあり、短時間でスムーズに計画が実施できた。

参加児童・生徒の募集は、教育委員会の支援により、市内の小中全 83 校へ案内を送ることができ、同時に学校派遣で入っている協力員から個々への案内をすることによって洩れがないようにした。ボランティアは、メンバー以外に国際交流協会の後援により成人向けの日本語教室に呼びかけ、臨時の募集ができた。成人の学習者には募集チラシの翻訳を7ヶ国語で作成してもらうことができた。また東部公民館には講堂という広い部屋、実行委員会のための会議室等、場所を提供してもらえたことなどは、大きな支えとなった。

今回は日程的に、参議院選挙と重なる可能性もあったため、公的場所以外を探そうとしたが空いている場所がなかった。行事のための場所の安定確保は難しいところだ。課外活動の千葉市動物公園は森が多く、真夏の猛暑の中でも安全にまわることができた。動物や写真撮影にあまり関心がない子どもにも走り回る広い場所があり、飽きずに参加できたようだ。引率に関しては、前回から始めた個別の確認カードを見せ、口頭確認を（集合、持ち物、連絡先を書いたもの）充実させたこともあり、今回初めて集合時間や電車の乗り遅れが一人も出ず、時間通りに行えた。

今までの経験から3日目は集まりが悪いのは予想できたが、今回は夏休みにはいつてすぐではなかったことや、場所の予約の関係で3日目の前日が休みだったこと、帰国する子、他の行事と重なる子が多く参加者が少なかったのは残念だった。そんな中でも人数がまとまったグループは3日間で仲間意識が高まり、意欲的に自主的な学習ができたようだ。

学校でチラシを見て参加した子どもは今回いなかったが、夏休みで外国から体験参加をする子どもはいた。ボランティアに関しては、十分な人数が確保できた。グループ外からの協力者からは、受け入れる雰囲気があり、自然に溶け込め、参加しやすい団体であるとの感想があった。

課題としては、いろいろな行事と重なる時期だが、もう少し多くの参加者を集める工夫ができればよいと思う。また保護者が連れて来られない子どもたちもあきらめず、一度相談してもらえ募集対策も必要だろう。保護者の日本語の問題もあり、弁当を持たせなかった家族が1件あった。連絡事項の理解の確認は、通訳を使うなどして徹底しなければならない。神輿、科学館、プラネタリウム、フィールドアスレチック、動物公園等、課外活動も定着してきた。今後も魅力的な課外活動とテーマを企画し、子どもたちが楽しめる行事にしていきたい。

参考資料2 活動風景の写真

1.自分の干支のポスターの前で自己紹介



2.動物公園での時間の使い方を相談



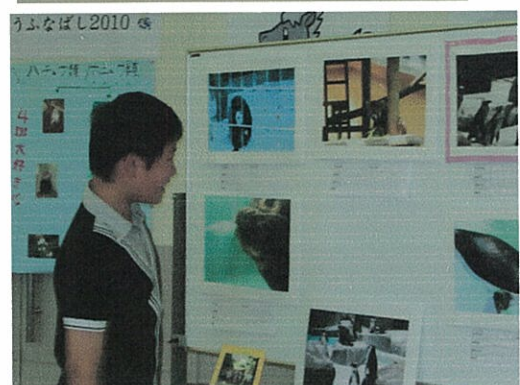
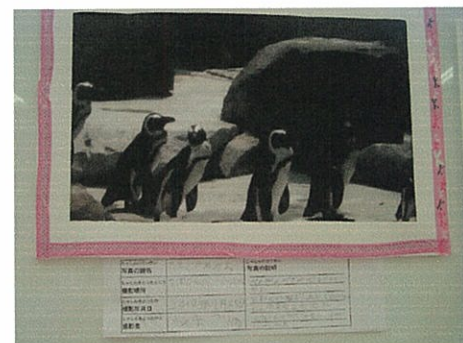
3.動物の出身国などをメモ



4.お父さんから借りたカメラで



5. 題「たまごがあったよ」→
6. 自分のパネルについて発表 →
7. 動物の分類のまとめとクイズ↓





食を通じて相互理解を図る料理教室は毎回好評だ。



29名7ヶ国から集まった小中学生が仲良く活動している。

地球っ子プロジェクト



国際化する船橋にはなくてはならないプロジェクト

住所／船橋市前原西2-21-21

電話／047-433-0487

代表者／宮慶助

写真・文／山崎健太郎

国際的な街船橋ならではの 「子ども日本語学校」

地球っ子プロジェクトは、平成18年2月に発足、外国からやってきたり、帰国したばかりの「日本語を母語としない」子供達の日本語学習を支援するため設立されたプロジェクトだ。その指導方針は、学校の授業で使う程度の日本語が体系的に理解できるように主眼を置いている。平成20年、22年度には文化庁の委託事業として採択され、ますますの活動充実を図っているのだ。

子ども日本語教室の活動は東部公民館で毎週土曜日と、夏休み・冬休み教室を行い年間40〜45回程度実施されている。現在、29名、7ヶ国からやってきた児童が在籍しており（平成22年12月現在）、毎回20名程度が日本語教室に参加するといふ。

このプロジェクトは、船橋市教育委員会や船橋市国際交流協会の後援を受けており、また、東部公民館とも様々な連携を図っている。東部公民館で毎月1回、第三土曜日に実施されている『ハッピーサタデー』にも年一回以上参加、日本人小中学生と一緒に中華料理やベトナム料理をはじめとした各国の料理を学ぶ料理教室に参加することで相互理解が図れるよう動いている。「学校だけでは手が回らない。日本語ボランティアなどの民間学習支援が必要とされている」と宮代表。国際的な街に成長した『船橋』を象徴するようなプロジェクトだ。